

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470800885
法人名	株式会社 森伸
事業所名	ケアパートナー 森伸小俣
所在地 (電話番号)	伊勢市小俣町明野1308 (電話) 0596-20-5100
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 12 月 21 日(金)

【情報提供票より】(H19年12月5日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 12人, 非常勤 5人, 常勤換算 7.3人	

(2)建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	16,800 円	
敷 金	有(円) <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(48,000 円) 無 <input type="radio"/>	有りの場合 償却の有無	有 / <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(12月5日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1		名	要介護2		7 名	
要介護3		10 名	要介護4		1 名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	83.2 歳	最低	67 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	荒木内科循環器科 豊浜歯科医院 山田赤十字病院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表者は、基本理念の「一人の人を大切に」を常に念頭におき、建設時より取り組んでいる。その熱い思いを職員に伝えサービスの向上に繋げるために、職員の研修に熱心に取り組み毎月1回事業所の研修センターで研修会を行っている。そのほかにも社外研修を受講するよう職員に勧めサービスの質の向上を図っている。また、事業所は終末期に向けた方針も決めており、本人や家族が希望すれば取り組めるよう、かかりつけ医や職員と話し合い方針を共有している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で、1件要改善とされたがユニット会議で話し合わせ改善が図られた。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は評価の意義を理解しており、今回の自己評価も全員参加で取り組み管理者が纏め全員に周知している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、今までに5回開催している。出席者も家族代表、地域代表、民生委員、地域包括支援センター職員、市職員、市議会議員の協力を得て2ヶ月に1回開催し、外部評価の結果や事業所の課題等について積極的に意見交換を行っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問時に声掛けを行っている。相談、苦情があった場合はクレーム受付表に記録し、検討結果を家族に報告すると共に全職員にも周知徹底を図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 開設時より、顔を合わせる人に挨拶の励行を心がけている。近所の人に野菜を貰ったり、家庭菜園の作り方なども教えてもらっている。ボランティアの訪問も多く訪れている。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人ひとりと共に生き、より添うような存在でありたいとの思いと、地域に根ざした運営を目指すことを方針として「一人の人を大切に」を基本理念にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人研修時には、十分に話している。毎月行われるユニット会議でも話し合い具体化して日々実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設後、まだ日の浅い事業所ではあるが、運営者をはじめ職員の地域に対する熱意が認められ、ボランティア等多くの人が訪れている。	○	今後は、老人会活動をはじめ地域の文化祭等、各種行事への参加も考えているようであり期待をしたい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や、目的を理解し、今回の自己評価を全職員で実施している。また、前回の外部評価の結果を踏まえ話し合いを行い改善を図っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今までに5回開催しており地域代表や家族代表、民生委員、市職員、市議会議員も参加して二ヶ月に一回開催され、事業所の課題や評価の結果等について話し合いを行い、サービスの向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、ホームヘルパー養成講座も開催しており、市の担当者とは絶えず話し合いをしている。	○	地域住民を対象に、介護教室などを開き認知症の理解、対応についての勉強会が考えられており期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の近況報告や、職員の異動などを写真入りで載せ、ケアパートナー通信を3ヶ月に1度送っている。それ以外にもご家族様へのお便りとして利用者の身体状況等を詳細に書かれ2ヶ月に1度送っている。金銭出納簿は6ヶ月に1回送っているが、家族の訪問時にも都度確認をお願いしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に、事業所及び外部への相談苦情窓口も記載されている。相談苦情があった場合は、クレーム受付表に記録され、検討結果については家族に説明されており、運営推進会議でも報告をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所内の異動は少なくし、やむを得ぬ事情により退職する場合のみ職員の補充を行う。その場合4週間位を職員の研修期間として人員をダブらせて配置し、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修は、研修プログラムに則り研修を受け、研修報告書も記入している。現任研修も事業所研修が毎月一回あり全員受講している。外部研修も極力参加するように取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所、連絡協議会に参加し交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お試し入所をしたり、家族と一緒に見学に来たりして、できるだけ馴染めるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除、洗濯物たたみなどを上手に出来るよう教えてもらったり、戦時中の出来事を話してもらったりして、利用者を人生の先輩として敬い共に支えあいながら、信頼関係を構築している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望が聞ける場合は、希望に応じて買い物、散歩等に出かけている。把握の難しい利用者には家族に聞いたりして、本人に投げかけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月行われる会議で、家族の意向や、日常生活動作の状態を担当職員が報告し、全職員と話し合いながら計画担当者が介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは、3～6ヶ月ごとに行っている。急激な状態変化が生じた場合は、本人、家族、全職員で話し合い現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望を聞き自宅への送迎をしたり、お墓参りの支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常的には、協力医療機関との連携、情報交換を密に行い利用者の健康状態を把握している。事業所内には、看護師も副施設長として在籍しており、家族の信頼を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所は、終末期に向けた取り組みを決めており、本人、家族とも話し合っている。状態の変化があるごとに本人や家族の意向を確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所内研修で、接遇マナー等を勉強し意識の向上を図り、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩など一人ひとりの思いに配慮をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週に2回、利用者のリクエストデイを設け希望のメニューを利用者と一緒になって作っている。食器拭きや、後片付けなども職員と一緒に楽しみながら行っている。	○	現在は、週に2回のリクエストデイが設けられており利用者も大変喜んでいる。出来れば手作りの日を増やしていくことが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者には、毎日でも入浴の支援を行っている。時間も職員が2名いるときであれば、利用者の希望に合わせて支援を行っている。入浴を嫌がる利用者も週に2回以上は入るようにしている。(強制はしない)		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の手伝い、掃除、レクリエーション等一人ひとりの希望に合わせて支援をしている。将棋の好きな方には利用者と一緒に書店へ行き月刊書の購入の支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には、買い物、散歩、ドライブに出かけている。年に数回ではあるが近隣の花見にも出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室などの鍵は掛けられていないが、事業所の直ぐ前が道路に面しており車の通行量も多く危険性が高いので、ユニットの出入り口の扉は施錠をしている。	○	事業所は、利用者の安全を重視して施錠をしているが、利用者の心理的な不安、閉塞感などのデメリットも考えて、利用者の安全を確保しながら日中は鍵を掛けないで済む工夫に取り組まれていることが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、利用者と共に避難訓練を行っている。運営推進会議でも地域の協力をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養内容・摂取方法一覧表に、摂取カロリー、水分量、糖分塩分量、咀嚼、嚥下などが記入され一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの周りには、畳ソファが置かれテレビを楽しんだり、外の家庭菜園の花や、野菜を眺め季節の移り変わりを楽しんでいる。浴室やトイレも家庭的で清潔にされており、居心地よく過ごせるようにしていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使われていたダンス、ソファなどを持ち込まれ、利用者が安心して過ごせるように配慮されていた。		